



SUZUKA
NATIONAL
HOSPITAL

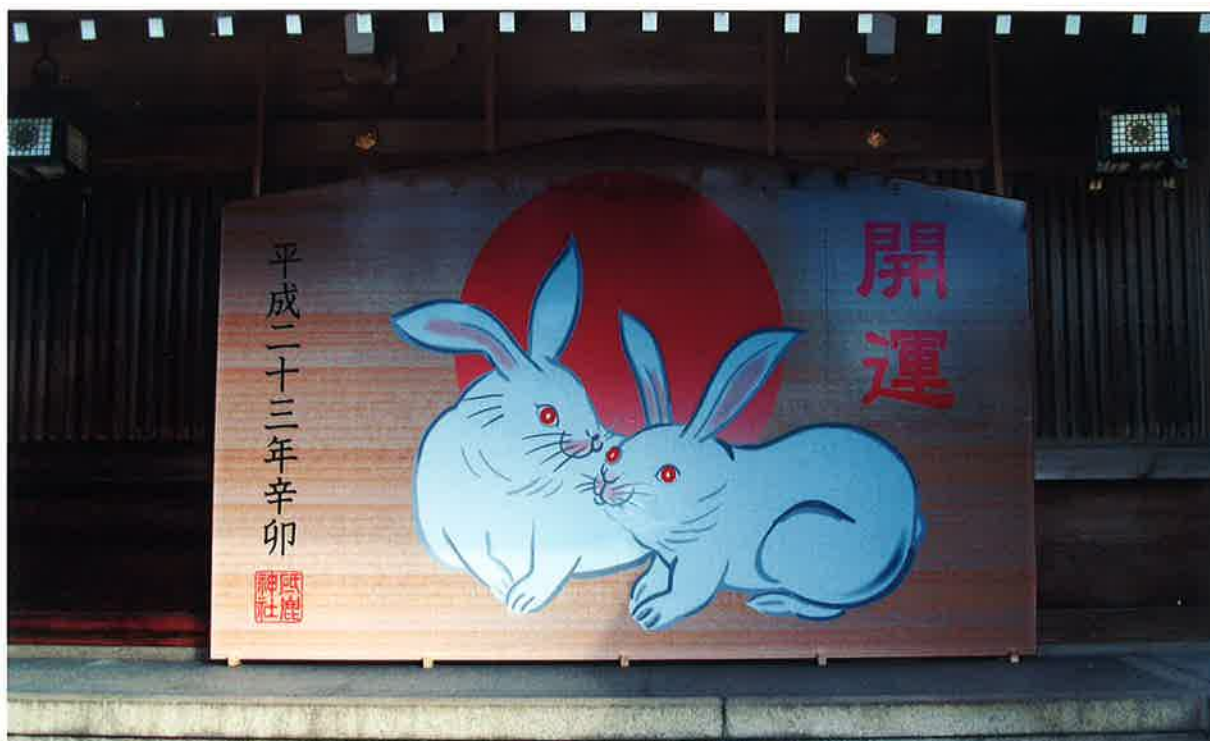
鈴鹿の風

2011. 1
第11号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



撮影：療育指導室長 愛田 弘美「豊川市砥鹿神社」^{とが}

Contents

- 1 ■ ごあいさつ コメディカルの研究発表
- 2 ■ トピックス① 安心・安全な医療を目指して
医局短信 神経内科
- 3 ■ 看護だより 中学生の職場体験実習を受け入れて
平成オタクコラム プロ野球編4
News 通院患者の服部佳克さんが表彰されました!
- 4 ■ 療育通信 鈴鹿病院のクリスマス会
- 5 ■ トピックス② いきいき健康講座／総合医学会と筋ジス班会議／新任者紹介
- 6 ■ 地域医療連携室だより
News 新しい宿舎について聞いてみました!
- 7 ■ 外来診察担当表／交通案内／編集後記

コメディカルの研究発表

病院長 小長谷 正明

新しい年を迎えました。今年も鈴鹿病院は障害者と地域に開かれた医療を目指して努力致します。先頃完成した中央病棟に引き続いて、外来・診療部門・更衣棟などの施設整備を進めるとともに、診療内容の更なるレベルアップを図っていきます。

さて、医療にたずさわる職員は、病気や患者さんたちへの治療や病苦の緩和をいつも考える視線が大事です。大昔、おそらくエジプトや中国の古代文明よりもっと前から、私たちのご先祖様たちが、苦労を重ね、経験を積み、今日の医療や看護の技術を編み出してきたにちがいありません。

この病院でも、たくさんのドクターやナース、機能訓練士や療育職員がそれぞれに問題意識を持ちながら業務に励んでいます。DNAや病理学などの深い科学の目の人もいますし、薬では治らない症状への機能訓練を考えたり、ベッドサイドケアの看護技術のスキルアップに努力している人もいます。一生懸命の姿をみているのは、本当に気持ちいいものです。私にもそのような時代があったので、新しいアイデアが湧き、いい研究結果が得られた時の達成感と亢奮を懐かしく思い出します。

もちろん、医学にしろ看護学にしろ、研究や論文には厳しいものがあります。まずは、本当に患者さんのための研究かが重要で、研究のための研究ではいけません。ましてや、危険なものは論外です。次に、研究方法は正しいのか、結果の信頼性はどうか、倫理的、科学的にきちんとしていて、はじめて成果を問えるものになります。

そして、なによりも、研究活動することによって、自分自身の医療や看護を客観的に見れる医療人として育っていきます。そのようにして、鈴鹿病院でも筋ジストロフィーや神経難病、重症心身障害などの分野で、それなりの評価を得てきました。筋ジストロフィー特有の呼吸法に気がついて論文を書いたり、重症心身障害者への効果的なおむつの装着法で表彰されたナースもおり、やがてそれぞれが貴重な人材になっていきました。

しかし、ドクター以外の職種には研究発表の場は思いのほかありません。その意味では、国立病院総合医学会は、職種の壁を取り払って同じフロアでテーマ別に研究成果を発表し合うという、素晴らしい場です。毎年、日本中から沢山の人が集まり、ポスターの前の討論では人息れでムットとするほどに熱気にあふれ、もちろん、当院からも毎年多くの発表をしています。

もう一つは筋ジストロフィーの研究班で、これは、厚労省と国立精神神経研究センターが中心として、何十年間も続いてきた研究組織です。その中には、看護やリハビリ、栄養、療育などのコメディカルも含まれており、障害者を診る国立病院のレベルアップには非常に大きな役割を果たしてきました。たとえ護送船団方式と言われても、全国で同じレベルの医療を提供するためには大事なことです。現在、当院でも人工呼吸器は90台以上（入院患者の三分の一）が毎日稼働し、しかも、殆ど大事故なしにやって来ています。このことを友人の教授などに話すと、皆信じがたいという顔をしますが、この班会議のおかげです。そこでの発表や討論を通じて筋ジストロフィーの人工呼吸器療法とケア技術が全国に広まり、さらに、それぞれの病院で、神経難病などほかの医療分野にも波及していったのです。新しい治療法やケア技術の経験や研究結果を持ち合っ、切磋琢磨してきました。ある高名なドクターが、班会議で看護師さんたちが目を輝かせて発表し、全国レベルで意見を交換して連帯感を醸し出しているのは、見ていて楽しかったと言っていました。

日々のベッドサイドでの向上心を持った医療や看護が、患者さんによりよい医療を提供することに直結するはずで、このようなスタンスを大事にして行きたいと思っています。

トピックス①

安心・安全な医療を目指して

医療安全管理係長 小林 孝子

鈴鹿病院の医療安全という責任重い仕事を任されています。鈴鹿病院職員全員が安全・安心という意識を持って専門分野の業務に専念することができることを目標にしています。

最初に毎月実施している感染防止対策小委員会で取り組んでいる病棟ラウンドを紹介します。今回のテーマは、患者の病室環境です。医師や栄養士など他職種が協働で病棟ラウンドし、様々な専門的視点から問題点を見つけ出し、当該病棟職員が気づけない部分を助言しています。感性豊かな人を育て、全病棟が整理整頓でき、清潔な病室環境を提供できることを目指しています。

次に、理学療法士や放射線技師等を対象に、緊急時の対処法について当院医師よりレサシアン人形を使用した演習と講義を実施しました。病院という職場で働く全ての職員がどこで遭遇するかわからない患者の急変に備えて、自分で行えることは何か、どのように対処すればよいか指導を受け、全ての職員が急変時戸惑うことのないように教育・研修を実施しています。



安心・安全な医療、環境を提供できるよう日々努力していきます。

病棟や外来の巡回時、何かお気付きのことがありましたら何時でも声をかけてください。

医局短信 ～神経内科～

神経内科部長 久留 聡

わが神経内科は小長谷院長以下7名のスタッフで診療にあたっています。病棟では約150名の入院患者を担当しています。第一病棟にはパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの神経難病、新しく完成した中央病棟の東1、西1両病棟には進行性筋ジストロフィーおよびその類縁疾患の患者さんが入院されています。慢性疾患が多く、QOLの向上を目指した診療を心がけています。長年にわたって神経筋疾患の呼吸管理に積極的に取り組み、多数の人工呼吸器が稼働しています。教育面では、名古屋大学、藤田保健衛生大学、三重大学から実習生を受け入れ指導をしています。また臨床研究部と連携しながら神経病理を始めとする研究活動も行っています。筋ジストロフィー診療はいまや遺伝子治療が現実のものになりつつあり、こうした新しい時代の波に乗り遅れないようスタッフ全員が努力したいと考えています。

看護だより

中学生の職場体験実習を受け入れて 1病棟 副看護師長 廣田 沙織

鈴鹿病院では、高校生の1日看護体験・インターシップの受け入れと共に、平成12年よりわくわく体験として中学生の職場体験学習を受け入れています。昨年も9月と11月の3日間、地元中学校の男女各4名が神経難病病棟・筋ジフトロフィー病棟に実習に来ました。

1日目、生徒は食事援助の見学とオムツ交換の体験で緊張したようです。2～3日目は、日常生活援助を要する難病患者の食事・入浴の援助等を体験し、食事援助で様々な食事形態に驚きながら、患者さんの口元へ食事を運び会話の中から楽しい雰囲気を作り出すことが出来ました。患者さんから中学生に「伝の心(重度障害者用意伝達装置)」で作成した手紙をもらったり、文字盤で「ありがとう」と言われ、「自分達は会話をしたり見学させてもらっただけに、感謝の言葉を言ってもらえて嬉しかった」と話してくれました。



この体験の中で生徒は、難病でも明るく前向きに生きている患者の姿や笑顔に感動し、働くことの素晴らしさ・厳しさを感じ取っています。さらに「一人の命を多くの人が支え、同時に一人が多くの命を支えていると感じたのは、看護師の温もりや優しさに接したから」との感想が寄せられました。

職場体験実習を通じてたった3日間で、これだけの思いを述べてくれた中学生のひたむきな姿勢に感動すると共に、鈴鹿病院の地域に根付いた病院としての役割が、こんなところにもあったと改めて感じました。彼らの感性に勇気をもらい、看護の素晴らしさと誇りがもてるように頑張っていきたいと思います。

平成オタクコラム プロ野球編4

神経内科部長 久留 聡

平成22年の日本シリーズは、パ・リーグ3位から勝ち進んだ千葉ロッテが優勝した。このシリーズ、中日には森繁和、辻発彦、ロッテには金森栄治と、かつて西武ライオンズで活躍した選手がコーチとして在籍していた。森繁和は西武初期に活躍したリリーフエース、辻は巨人との日本シリーズでクロマティの緩慢な守備のスキをついた好走塁でも有名な名二塁手、そして金森は昭和53年の日本シリーズで江川からサヨナラ打を放った名パイプラーである。特に金森は独自の打撃理論でロッテのバッターの絶大の信頼を得ており、スポーツ番組でも取り上げられた。西武を初優勝に導いたのは広岡達朗であり、その後森祇品が監督を引き継ぐが両者ともに巨人の出身である。昭和後期から平成の初めには、どのチームも監督やコーチにはジャイアンツ出身者が多く、いわば無敵の強さを誇ったV9巨人のDNAが指導者を通じて各チームに伝えられていったと言えよう。皮肉なことに本家本元のジャイアンツはといえば、その間スター選手を金にあかして集めるばかりで、地道なチーム作りを怠り、結局は人気、実力ともに長期低落傾向になってしまった。巨人戦の地上波テレビ中継も激減している。これをもってプロ野球全体の人気までが落ちてしまったような指摘もあるが、そうではない。今や西武黄金時代のDNAが各チームに伝えられつつあり、プロ野球の新たな時代の到来を予感させる。

News

通院患者の服部佳克さんが表彰されました!

鈴鹿病院へ通院されている服部佳克さんが、ユニバーサルデザインアドバイザーとしての活動が評価され、四日市市障害者大会より表彰されました。

服部さんは、車椅子が足となり、地域で生活していく中で、ユニバーサルデザインに出会ったそうです。ユニバーサルデザインとは、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人々が利用可能できるようにデザインすることをいいます。

実際に利用する服部さんの立場からみて、障害者の駐車場、多目的トイレ、手すり・電気スイッチの位置、家の中、点字ブロックの場所等、少しの工夫や位置を変えることで、すべての人が使えるようになるのと思うことが多いそうです。誰でも使いやすい生活環境を作ることにより社会参加することができる、という強い思いを抱かれ、さまざまな所で助言をされたり、個々の啓発活動から学校での講演活動まで幅広く活躍されています。

下記は服部さんの活動に関連するホームページです。よければご覧ください。

UDほっとねっと四日市 <http://www.ud-hotnet.com/>



鈴鹿病院のクリスマス会

児童指導員 篠原 麻綾
竹村 真紀

【筋ジストロフィー病棟】

12月15日(水)、筋ジストロフィー病棟において、東西合同のクリスマス会を開催しました。新病棟へ引っ越ししてから初めてのクリスマス会ということもあり、患者さんへ提供する内容や開催場所への移動経路など、療育指導室スタッフも計画に余念がありませんでした。

東西各病棟ではジャズプレイヤーの塚本シスターズさんの演奏、医療クラウンのあんこさんのマジック、3階プレイルームでは三重県警察音楽隊のオーケストラによる演奏を披露していただきました。



今回も、鈴鹿ベイロータリークラブによる喫茶コーナーを筆頭に、沢山のボランティアスタッフのご協力を得ることができました。患者様からは「楽しかった」「また来て欲しい」などの感想が聞かれ、短時間ではありましたがクリスマスの雰囲気を楽しんでいただけたのではないかと思います。



【重症心身障害児(者)病棟】

12月13日(月)に中央病棟3階プレイルームで行った、西2階病棟クリスマス会の報告をします。



♪院長サンタさん登場♪

院長サンタ登場から始まり、あんこさんによるクラウンショー、カルピスの味覚体験、今年度病棟新人職員による「あわてんぼうのサンタクロース」、療育指導室職員による「もろびとこぞりて」のトーンチャイム演奏という内容で行いました。

病棟主治医の判断で44名の患者様が新病棟へ引っ越しして初めて3階プレイルームでのクリスマス会を行いました。この日はあいにくの雨でしたが、たくさんのご家族の方やボランティアの方に来て頂き、楽しいクリスマス会になりました。



♪療育指導室職員のトーンチャイム演奏♪

たくさんの患者様の笑顔がみられる楽しいクリスマス会となりました。

トピックス②

いきいき健康講座 ～7回目を迎えて 外来 看護師長 森 末子

春・秋の年2回、地域の方々に向けて開催している「いきいき健康講座」も平成22年11月17日の開催で7回目を迎えました。毎回、皆様の健康増進に役立つような講演と健康チェックを行っています。今回のテーマは「家庭における救急手当」で、日常生活における救急時の対応、骨折時の応急処置の方法等で、餅を詰まらせないための呼吸と飲み込みのリハビリを体験していただき、大変好評でした。講演開始前の血圧・体脂肪・骨密度測定などの健康チェックでは、「この講座に毎回来て、自分の健康をチェックしている



のよ」と言われました。この講座を活用し、自分の健康に関心を向けていただけると喜びを感じる一言をいただきました。地域の方々に対するニーズに応じた内容となるように、また、当院を身近に感じて気軽に受診していただけるように、来年度も取り組んでいきたいと思っております。



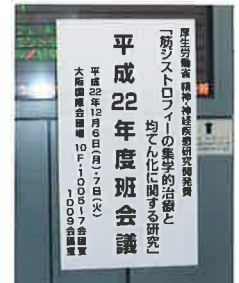
総合医学会と筋ジス班会議に出席して 主任保育士 蒔田 千里

11月26日27日に第64回国立病院総合医学会が福岡国際会議場で、12月6日7日には「筋ジストロフィーの集学的治療と均てん化に関する研究平成22年度班会議」が、大阪国際会議場で行われました。

今回の総合医学会の会場は福岡という遠方ではありましたが、鈴鹿病院からは8題もの発表があり、皆さん日々取り組んでみえる活動内容について力強く報告されていました。また鈴鹿病院から転勤された方々にもお会いでき、それぞれに活躍されている姿を拝見し、気が引き締まる思いがしました。



筋ジス班会議は国の政策医療でもあり、患者さんのQOL向上にむけての発表がなされ、活発な意見が交わされました。閉会の挨拶では、昨今の政治経済の流れに伴いこの会議も何らかの影響は避けられないであろうと班長の神野先生よりお話がありました。日々、患者さんに行っている活動をいろいろなかたちで報告し、アピールすることの必要性和大切さを再認識しました。



新任者紹介



栄養管理室 調理師長
廣森 孝司

平成22年4月1日付で調理師長に昇任させて頂き責任の重さを痛感しております。

前任の調理師長が退官され職員1人となりましたが、業務委託の職員の方と協力して患者様によりよい食事を提

供して参りたいと思っておりますので、宜しくお願いします。



企画課 専門職
竹村 光弘

平成22年10月1日付で静岡県の天竜病院から赴任してまいりました。三重県での勤務は初めてとなります。自宅は愛知県稲沢市ですが、単身でリース宿舎に住んでいます。何かと不慣れでご迷惑をおかけするかもしれませんが、

宜しくお願いいたします。

地域医療連携室だより

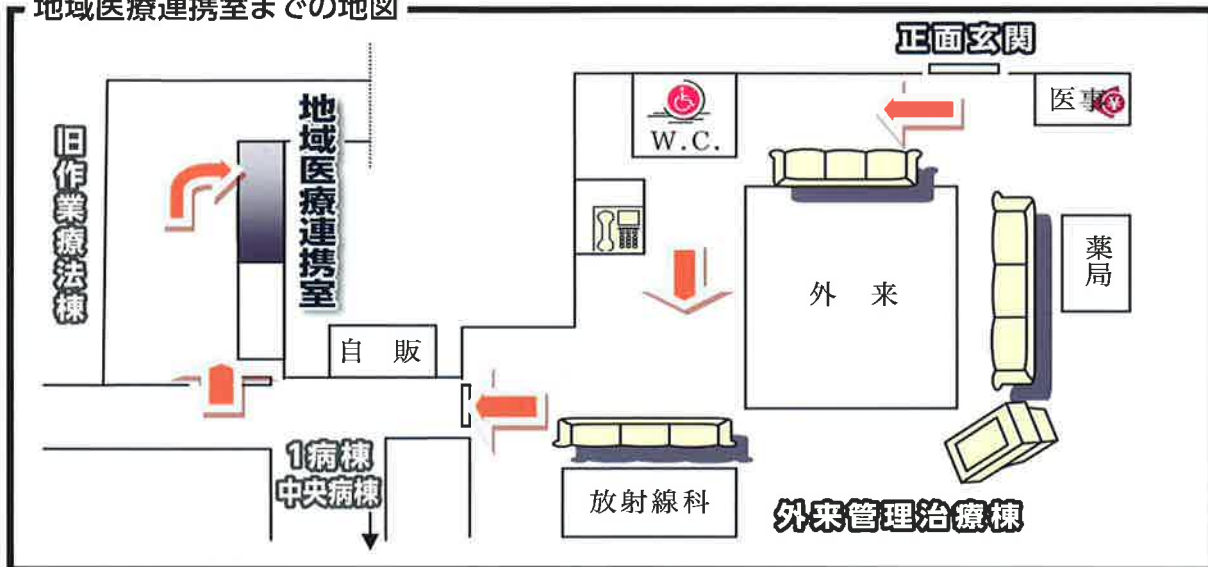
身体障害者手帳について

医療社会事業専門員 隠岐 沙希子

身体障害者手帳とは、体や体内の機能に障がいを持たれた方に交付される手帳です。障がいの程度によって、1級から6級の区分があり、それぞれの等級によっていろいろなサービスが受けられます。

興味、関心のある方は、お気軽に地域医療連携室までどうぞ。

地域医療連携室までの地図



News

新しい宿舎について聞いてみました!

昨年、新しい病棟が建てられた後、新しい職員宿舎も建てられました。そこで、新しい宿舎を借りている職員にアンケートをとってみました。

ご協力いただいたのは、副看護師長の中井さんです。ありがとうございました。

● 部屋の中はどんな感じですか？

何もかも新しくきれいです。階段の場所なので少し広めのお部屋です。周囲が開放されているので、治安は万全、そして何より防音はすごいです。

● 住みごちはいかがですか？

快適ですよ。通勤は雨でも嵐でも雪でも問題ないので。渋滞はないですし。

● 宿舎を借りる利点を教えてください。

通勤が安全で確実です。

車がなくとも食品の買い物も近くでできます。JRも歩いて行けます。出張でも大丈夫です。今のところ不便は感じていません。

● 最後に一言。

外観もきれいです。病棟からも見えますね。



外来診察担当表 (2011年1月1日現在)

	月	火	水	木	金
神経内科	小長谷	酒井	松本	小長谷	久留
内科 (循環器科)	奥村 (循環器)	木村	安間 (循環器)	安間 (循環器)	棚橋 (循環器)
小児科	予約	予約	予約	予約	予約
整形外科		田中(信) 午後(装具)			田中(信)
					田中(信)
リハビリテーション科					田中(信)
歯科	山口		松村	永田	
皮膚科		武市			

- ◆ 外来受付は8:30～11:00、診療開始は9:00～です。
- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三交バス(荒神山行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ

◆ 発行

平成23年1月

独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501

三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号

Tel. 059-378-1321(代)

Fax. 059-378-7083

<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

中央病棟が完成して初めての新年を迎えました。昨年度末頃の慌ただしさが嘘のような穏やかな新年です。今年は、当院にとってまた新たな整備計画の元年となります。また「鈴鹿の風」も創刊以来5年目を迎えました。今後一層充実したものをお伝えしていこうと思っております。(中林 正一)

※写真は本人の許可の下、掲載しております。